

* * * * *

*
*
*
*
*
*
*
*
*
*
*

国連・核廃絶デー 記念講演会

9月26日は国連・核廃絶デー（核兵器の全面的廃絶のための国際デー）
核兵器が人類に及ぼす脅威を知り、核兵器の全面的廃絶のために世界中の人々が行動を起こす日です。

お話し
西本 多美子さん
石川県原爆被災者友の会会長

西本多美子さんは、4歳のときに広島で被爆されました。被爆者運動に関わられてからは、たくさんの方の被爆証言を読み込み、断片的に残る自身の被爆体験をつなぎ合わせながら、証言活動をされています。また、被爆者の指定医療機関を増やす取り組み、県内在住の被爆者の方の被爆者健康手帳の取得や原爆症認定のために奔走されてきました。

人類史上、初めて核兵器が広島・長崎に落とされて70年。

核兵器廃絶のために世界中の人々が行動を起こすこの日、改めて被爆の実相を胸に刻みませんか。子どもたちとすべての命あるものに美しい地球を引き継ぐために。

2015年

9/26 [土] 18:30~20:30

近江町交流プラザ

4階 集会室

金沢市青草町88番地（近江町いちば館内）

参加費
無料

■主催・お問合せ先
核戦争を防止する石川医師の会

電話 076-222-5373

Email ishikawa-hok@doc-net.or.jp

HP <http://ipnw-ishikawa.jp/>

■後援

国際連合広報センター、朝日新聞金沢総局、石川県原爆被災者友の会、石川県保険医協会、石川テレビ、NPO法人はだしのゲンをひろめる会、エフエム石川、九条の会石川医療者の会、生活協同組合コープいしかわ、非核の政府を求める石川の会、北陸中日新聞、北陸放送、北國新聞社、毎日新聞北陸総局、

絵 かるべめぐみ



核兵器の全面的廃絶のための国際デー（9月26日） 国連事務総長のメッセージ

世界は長い間、核兵器の不使用を絶対的に保証できるものは核軍縮以外にないこと、そして、核兵器が使用されれば人道面で壊滅的な影響が生じることを認識してきました。

よって、核軍縮は理想主義者の夢ではなく、全人類の安全を真に守るために緊急に実現が必要な課題といえます。

国連総会が初めて、核兵器その他の大量破壊兵器の廃絶という目標を掲げてから、68年が経ちました。

そして、核兵器不拡散条約の発効により、その締約国が誠実な核軍縮交渉の開始を約束してから、44年が経過しています。

この交渉を始めるべき時期は来ています。核軍縮交渉が行われていないことで、国際的なコミットメントにおける軍縮と不拡散の間の微妙なバランスが崩れてきているからです。

私は6年前、核軍縮に関する5項目の提案を出しました。その中には、この目標を達成するために可能な2つの道として、相互補強的な個別協定の枠組みに関する合意と、確固たる検証システムに裏打ちされた核兵器禁止条約が掲げられていました。

最も重要なのは、どちらの道を選ぶかではなく、選んだ道が、核兵器の全面的廃絶という国際的に合意された目標の達成に向かうようにすることです。

今年の国際デーは、単に私たちが核兵器を制限したり、その射程距離を狭めたり、その配備を制約したり、安全保障政策におけるその役割を低下させたりすることを求める日にとどまりません。

それは、国際社会が安全の強化から資金と科学的資源の保全に至るまで、核軍縮によって生まれるはずの多くの恩恵についてしっかりと考える日でもあります。

それはまた、核の抑止力という危険で脆弱なドクトリンが崩れたとしたら、どのような影響が生じることになるのかを想像するための日でもあるのです。

すべての人々、そして将来の世代の平和と安全を守るため、核軍縮を再び国際的な最優先課題としようではありませんか。

引用：国際連合広報センター
プレスリリース 14-060-J 2014年09月26日
http://www.unic.or.jp/news_press/messages_speeches/sg/10315/



■核戦争を防止する石川医師の会とは？

私たちは、ひとたび核戦争が起これば医師は無力であることを、広島・長崎の被害から学びました。そして、すべての人の生命と健康をまもるという医師・歯科医師の社会的な責務から、健康にとって最悪の敵である核戦争に反対し、ふたたび被爆者を生み出すことのないように、1988年に核戦争を防止する石川医師の会を結成。以来、核戦争防止と核兵器廃絶のための様々な活動を行っています。

2010年からは、核兵器廃絶国際行動デーを毎年開催してきたほか、2011年からは、被爆の実相を子どもたちに伝える活動として、漫画『はだしのゲン』を石川県内の小中学校63校に寄贈してきてきました。また、23か国語に翻訳されている『はだしのゲン』を世界中の人々に贈る活動をしている「NPO 法人はだしのゲンをひろめる会」の取り組みにも協力しています。

